

『新聞は学校の学びを社会へつなげる役割』
 ～新聞を活用したN I Eの教育実践～
 新ひだか町立三石中学校 学級数5 (校長 日比野 光洋)

I はじめに

本校では、今年度から2社の新聞を毎日閲覧できる環境をつくり、生徒が新聞に親しみ、社会への関心を高めたり、読解力向上につなげたりするなどして、教育現場での新聞活用の可能性を探るとともに、「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、新聞の効果的な活用に取り組んだ。

II 実践の紹介

1 社会科における日常的な実践

(1) 新聞記事を紹介する1分間スピーチ (第3学年)

生徒が、その日の新聞記事の中から、事前に記事を選び、内容を要約し、「なぜ興味を持ったのか」、「この記事を読んだ感想」などについて、自主的に原稿を作り、準備をする。

生徒は、発表する記事を実物投影機で写しながらスピーチを行い、スピーチが終わると全員で感想を交流する。生徒にとって「選択する楽しさ」や「自分なりに考えをもつ」よさが実感でき、現代社会へ関心をもつ様子が見られた。

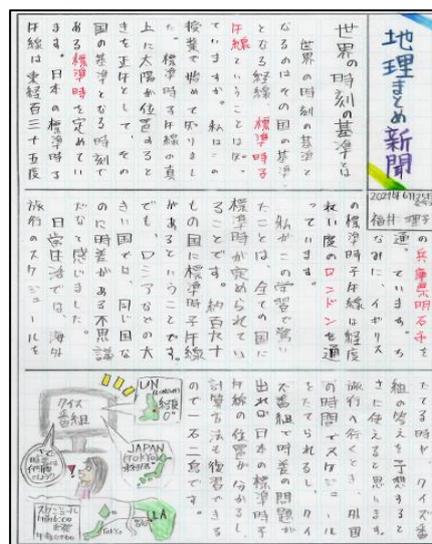


【スピーチをする生徒】

(2) 単元のまとめとして「はがき新聞」を書く (第1学年)

第1学年の社会科地理的分野「世界の姿」を学習した後、単元のまとめとして、はがき新聞にまとめる活動を行った。

はがき新聞は、はがきサイズやそれより少し大きなサイズの新聞形式の原稿用紙を使った作文であるため、時間をかけずに制作することができる。学習したことを要約し、決められた文字数で的確に表現する力が育成できるため、継続して取り組ませている。読み手を意識して、伝わる表現にするために文章を推敲するなど、生徒は国語科で学習したことを生かし、主体的に学習に取り組んでいた。また、生徒同士で互いに読み合い、感想や考えを交流することで、自らの学びを振り返ることができ、次の学びへとつなげることができた。



【生徒が作成した「はがき新聞」】

2 メディアリテラシーの育成

学習内容と社会とのつながりを意識させるため、授業の導入や終末に新聞記事を使い、活用するねらいや身に付けさせたい力によって、見出しを隠して何を報じる記事かを生徒に考えさせたり、写真を見せて、感じたことを述べさせたりするなどの取組を行った。また、授業でニュースなどに触れる際、速報性に優れているインターネットの情報や、社会的関心が高いものを取り上げるテレビなど、それぞれのメディアの利点や、気をつけなければならない点を考えさせ、情報を効果的に活用する力(メディアリテラシー)を育成している。

III 成果と課題

- 新聞を多様な方法で活用し、「読む」「書く」「考える」「協働する」等の言語活動や体験的な活動を有効に取り入れたことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながった。
- 新聞活用のよさを校内で共有し、取組を全校で行うことで、学校の学びを社会とつなげていくことができるよう、校内研修等の機会において、全教職員に周知していく必要がある。